COLUMN

産廃業界は学生インターンシップを



桜美林大学リベラルアーツ学群教授
藤倉まなみ
FUJIKURA Manami

1985年京都大学大学院工学研究科修了、2013年北海道大学大学院工学研究科博士課程修了、博士(工学)。1985年環境庁入庁、2005年環境省大臣官房総務課環境情報室室長、2007年慶應義塾大学環境情報学部教授、2010年桜美林大学リベラルアーツ学群(環境学専攻) 教授、現在に至る。科学技術・学術審議会専門委員、東京都環境影響評価審議会委員、神奈川県環境審議会委員、横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会委員、公益社団法人におい・かおり環境協会理事など。専門は環境システム科学、環境政策。

桜美林大学は、東京都の人材育成制度「ECO-TOPプログラム」の認定を受けている。これは、「自然環境に軸足をおいたジェネラリスト」を育成するもので、東京都の認定を受けた大学・大学院の課程において、環境に関する自然科学、社会科学、人文科学にまたがる科目を履修するとともに、企業・NPO・行政の３分野で環境に関連するインターンシップを行い、所定の単位を取得すれば、卒業時に都知事名の修了者登録証が都から交付される。現在7大学が認定を受けている。

ECO-TOPプログラムの修了学生のほぼ全員がやって良かったこととして挙げるのがインターンシップ（在学中の就業体験）である。インターンシップは、学生にとっては主に２つの意義がある。①仕事理解：自分が思い描いていた、あるいは自分が知らなかった仕事・業界の現実を見ること、職場の個々人の役割やその会社が業界・社会の中で果たしている役割を知ること。その結果、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られ、就職後の職場への適応力や定着率の向上につながる。②自分理解：実際の仕事の現場で求められる知識や能力に照らして自分はどうかを知り、残りの学生生活ですべきことを明確にすること。単にスキルだけではなく、社会で求められる課題解決・探求能力、実行力といった社会人として必要な能力について認識することで、自主的に考え行動できる人材の育成につながる。

一方、企業にとっては、学生に対する企業の魅力の発信、職場の活性化、採用のミスマッチの解消、即戦力の採用、産学の連携構築、社会貢献（CSR）などのメリットがある。

本学のECO-TOPプログラムでは、個人的にお願いして産業廃棄物処理会社でもインターンシップを受け入れていただいている。学生は、「処理の過程やその作業の大変さを身をもって感じた」「人々が生活し企業が生産活動を続ける以上、産業廃棄物処理はなくてはならないもの。地域住民との合意形成をいかに図っていくのかが課題」「処理を依頼する側の責任の大切さを学んだ」など、多くの学びを得させていただいた。この学生達は、産廃業界に就職したわけではないが、産廃業界の一理解者となって（恩義を感じて）社会に出て、様々な企業で働いている。それが、社会における産廃業界のプレゼンス向上や理解の促進につながるのではないだろうか。産廃業界の皆様には、ぜひ学生インターンシップの受入の拡大をお願いしたい。